

第11回遠州大名行列の物語 『信州と遠州をつないだ悉平太郎』(あらすじ)

1. 先触役が本陣亭主に宿割改めをするの場

場 所: 見附宿本陣(中央ステージ前)

開始予定/12:30~

江戸表より信州駒ヶ根へ帰る杉信濃守様のお行列の旅泊に先立ち、先触役が本隊到着の前日に見附宿を訪れ、宿割り(宿泊先の割付)を確認し、関札を本陣亭主に下げ渡します。

それに対し、見附宿本陣亭主・宿役人は歓迎の挨拶をし、早速、本陣は御行列受け入れの支度に執り掛かるのです。

2. 宿役人が東木戸にて御行列を御出迎するの場

場 所: 見附宿東木戸

開始予定/12:50~

いよいよお行列ご到着の日になりました。宿役人一同は御行列を出迎えるため東木戸まで出向きます。東木戸に着くと「入口」の関札を立て、道端に下座し、お行列を待ちます。

やがて、お行列が木戸に差し掛かり、先頭の武士が声を掛けます。宿役人たちはそれを受けてお行列の前に並び、本陣までご案内いたします。

3. 『信州と遠州をつなぐ悉平太郎』の場

場 所: 見附宿本陣(中央ステージ)

開始予定/13:35~

信濃守さまが東海道を江戸より国元へ帰る途中見付宿にご宿泊されることとなった。本来ならば中山道をお通りになられるところ、この日は、見付宿でこの藩侯と親しい遠江守さまとのご会見が予定されていたため、特別に幕府の許可をお取りになっての回り道であった。

話は鎌倉時代以前にさかのぼるが、見付宿では人身御供の恐ろしい慣習があり、若く美しい女性が毎年ひとり生け贄とされた。それを要求していたのは神様ではなく「ひひ」であり、それを退治したのが信濃の国の悉平太郎という犬であったと言い伝えられていた。その為、見付の人々はその恩を忘れることなく、信濃守さまへも特別親愛の情を示し、歓迎の準備が進められていた。特に、お出迎えのために掛塚の道囃子が待機して、ご到着をお待ち申し上げていた。

見付宿の古老達は、この機会に悉平太郎の偉業を再現させ、両藩侯にご高覧賜ることにし、解説には講談師が江戸から招かれるという熱の入れようであった。

池田の渡し川庄屋が天龍川留を急ぎ知らせる場

4. 場 所: 見附宿西木戸

開始予定/15:30~

東海道は、見附宿西坂の辻にて南に折れています。

翌日、お行列は本陣を出立し、天龍川池田の渡しを目指してこの西坂の木戸までやってまいります。しかし、ここで急の天龍川留めを知らせる使者と行き会います。

見附宿に足止めを余儀なくされた藩侯をお慰めするため、宿役人達は西坂の辻を北に進んだところにある護世寺境内に御休処を急ぎしつらえて、こちらにご案内することにいたします。